

## 他人の喜びのために恵みによって生きる（2コリント 1:12-24）

2020年5月10日（日）

ジョーイ・ゾリーナ牧師

---

先週より、第2コリント1:3-11から新しいシリーズを始めました。そしてパウロがキリストにある苦しみを分かち合った時に、経験した慰めについてどう語っているかを見ました。今日は12～24節から見ていきます。パウロはここで彼のミニストリーの防衛をしています。それは、彼の誠実さがコリントの偽の使徒たちによって疑問視されていたからです。今日一緒に見ていく3つのポイントは、1. 神さまの恵みが私たちの内で働く、神さまから受ける動機 2. イエスが私たちのために実現してくれた神さまの約束 3. 他人の喜びにつながる犠牲的な働き です。

---

### 1. 神さまの恵みが私たちの内で働く神さまから受ける動機

12～14節

「12わたしたちは世の中で、とりわけあなたがたに対して、人間の知恵によってではなく、神から受けた純真と誠実によって、神の恵みの下に行動してきました。このことは、良心も証しするところで、わたしたちの誇りです。13-14わたしたちは、あなたがたが読み、また理解できること以外何も書いていません。あなたがたは、わたしたちをある程度理解しているのですから、わたしたちの主イエスの来られる日に、わたしたちにとってもあなたがたが誇りであるように、あなたがたにとってもわたしたちが誇りであることを、十分に理解してもらいたい。」

さて、パウロはなぜ誇っているのでしょうか？彼が前述した第1コリント13:4によると、「愛は自慢せず、高ぶらない。」と書いてあります。じゃなぜ自慢しているのでしょうか？後の5:12でパウロは、「内面ではなく、外見を誇っている」偽の使徒がいたと言っています。これはパウロにとって、真の使徒としての彼の権威と性格を試される挑戦でした。今日の箇所ではパウロは良心の証について誇っています。彼が一番気をつけていたのは、人々が福音の悪口を言わないように誠実に生きる、ということでした。

パウロは私たちの誇りは「良心の証」だと言っています。「良心」という言葉は、「一緒に知る」という意味です。多くの人々はドラッグ、セラピー、娯楽などを使って良心を抑えたり、黙ったりします。しかし、良心は、私たちの道徳的感覚です。だから、私たちは罪悪感や恥を感じたりするのです。旧約聖書では、良心はよく心と繋がっていました。例えば、アダムとエバが神さまから隠れた時、彼らの良心に、道徳的裁きをもたらされ、恥を感じました。（創世記3）事実、箴言20:27では、「人間の息は主のともしび、腹の底まで探り出す、」良心は私たちの内面を探るランプなのです。神さまの前で自分たちを見る助けとなる灯りです。あなたが自分自身を正当化しようとしたら、あなたの良心はあなたに対して証をしているのです。正当化できるかもしれませんが、罪悪感と恥じる気持ちは無くなりません。パウロはローマ2:15で、クリスチャンではない人々でさえ、「律法の要求する事柄がその心に記されていることを示しています。彼らの良心もこれを証ししています。」と言っています。つまり、あなたの良心は、神さまの律法は正しいということを神さまの律法で証します。他の箇所では、1テモテ4:2でパウロは、「良心が麻痺している人々」の話をしています。それは、あなたの良心が、徐々に無神経になり、固く、冷淡になり、神さまの目に何が正しくて、何が間違っているのかもはや見分けることができなくなるということです。しかし、パウロは12節で、「私たちの良心の証は、神から受けた純真と誠実によって、神の恵みの下に行動してきたものだ。」と言っています。さて、あなたは「ミニマリズム（最小限主義）」について聞いたことがありますか？（最近のミニマリズム主義者によると）シンプルさは「不必要なものを取り除く」ことです。ミニマリストのライフスタイルは、最低限必要なものだけで人生を生きる、人生をシンプルにするということです。それは禅仏教に影響された宗教的な信仰心の形です。基本的に、ミニマリストは、もっとためておく、置いておく欲望から自由になろうとしています。そしてミニマリズムの反対は、マテリアリズム（物質主義）です。いいですか、あなたは宗教的にどんな種類の哲学にも身を捧げてしまい、偶像化してしまいます。しかし、ここ12節の「"simplicity"（日本語訳では"純真"）」という言葉は、「聖さ（きよさ）」と訳されます。そして「"Sincerity"（誠実さ）」は、「純粋な心の動機」ということです。言い換えると、表面的にはミニマリストになれるかもしれないけれども、罪がもたらす罪悪感からは自由になれないということです。あなたが人生をミニマライズしても（簡素化した人生を送ろうとしても）罪悪感や罪を簡素化したり、最小限にすることはできないのです。では、どうしたら解放されるのでしょうか？パウロが言っていることをもう一度見て見てください。「わたしたちは世の中で、とりわけあなたがたに対して、人間の知恵によってではなく、神から受けた純真と誠実に

よって、**神の恵みの下**に行動してきました。このことは、良心も証しするところで、わたしたちの誇りです。」パウロの純真さと誠実さは、道徳的観念からではなく、神の恵みによって受けたものでした。真の純真さは、神の恵みによって動機づけられた純粋な心からくるものです。私たちは世の中にいても、この世の価値観や知恵によってではなく、神さまの恵みによって定義づけされるのです。

あなたの心の動機は精密検査を受けることができますか？パウロの反対者は、パウロは不誠実で偽りだと非難しました。（10:10参照）あなたの動機は重要ですね？あなたがどうしてそれをするのか、その動機は、何をするかと同じくらい重要です！しかし、パウロは彼の動機と態度は神の恵みから来たものだと言っています。パウロは自分を自慢しているのではなく、神の恵みを誇っているのです。だから13節で、「あなたがたが読んで理解できること以外は何も書いていません。そして私はあなたがたが十分に理解してくれることを望みます。」と言っているのです。パウロは、彼の書いた手紙は明確だと自信を持っています。そしてそれは「主イエスの来られる日」に相互的に誇ることとなります。14節に、「私たちの主イエスの日には、あなたがたが私たちの誇りであるように、私たちもあなたがたの誇りです。」と書いてあります。いいですか、旧約聖書の時代では、「ヤーウェ（旧約聖書でのイスラエル民族の神の呼び名）の日」は、救世主が来て、人々を解放してくれる、裁きの日を表していました。しかし、パウロはここで、その日を「主の日」と表します。キリストが裁く方として戻り、神の人々を解放する、その時のことです。その日には、人々の良心でさえ彼らに対してキリストに証をするのです。しかし、パウロはコリントの人々はその日、パウロの誠実さを誇ってくれと自信を持っていました。その自信があったのは、コリントの人々がキリストの内にいたからです。では、次のポイントを見ていきましょう。

---

## 2. イエスが私たちのために実現してくれた神さまの約束

「15 このような確信に支えられて、わたしは、あなたがたがもう一度恵みを受けるようにと、まずあなたがたのところへ行く計画を立てました。16 そして、そちらを経由してマケドニア州に赴き、マケドニア州から再びそちらに戻って、ユダヤへ送

り出してもらおうと考えたのでした。17 このような計画を立てたのは、軽はずみだったのでしょうか。それとも、わたしが計画するのは、人間的な考えによることで、わたしにとって「然り、然り」が同時に「否、否」となるのでしょうか。18 神は真実な方です。だから、あなたがたに向けたわたしたちの言葉は、「然り」であると同時に「否」であるというものではありません。19 わたしたち、つまり、わたしとシルワノとテモテが、あなたがたの間で宣べ伝えた神の子イエス・キリストは、「然り」と同時に「否」となったような方ではありません。この方においては「然り」だけが実現したのです。20 神の約束は、ことごとくこの方において「然り」となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して「アーメン」と唱えます。」

さて、パウロの言っている、「もう一度恵みを受ける」とはどういうことでしょうか？ それは、もともと、パウロはコリントの人々を2回訪れることを計画していたということです。パウロはエフェソスからマセドニアに向かう途中、コリントに行き、コリントの人々と冬を共に過ごしたいと思っていました。そして、その後、ユダヤに向かう時の帰り道にもう一度コリントに寄るつもりでした。つまり、「もう一度恵みを受ける」とは、コリントの人々がエルサレムの貧しい信者に献金をする2回目の機会でした。後の8章でこのことを見ますが、ここでパウロは献金をすることを「恵みの行動」と言っています。そして、パウロの計画が変わったことで、何人かの人々は、パウロが自分の言葉と行動に誠実でないと批判しました。さて、パウロの心はコリントの人々に対して気持ちが減っていたのでしょうか？ そんなことはありません。パウロは自分の都合で、人間的な思いで、また自己中心的な興味や自分のために計画を変更したのではありませんでした。

Q.質問です。あなたは誰かを助けたり、仕えるべき時に、自分の人間的な思いで計画を立ててしまいがちですか？人間的に計画を立ててしまう、とは、そのことに関わるかもしれない他の人たちのことを気にせずに約束を破る、ということです。つまり、“Yes”と言っていたのにいつも“No”へと変わってしまうということです。もしくは、いつも、「多分」とか「分からない」とか「まだ」と言ってしまうことです。あなたの計画は神さまの目的で立てられていますか？もしくは、あなたの計画は、普通あなたが好むこと、安全、快適さ、そして便利さによって立てられますか？もし、あなたの計画が、誰かのために何かをする時にいつも変化していたら、もしかしたら、快適さ、自己愛の偶像があるのかもしれませんが。分かりますか？コリントの人々が非難したことは、本当のパウロのことではありませんでした！しかし、私やあなたにとっては、ある程度本当のこともあるのでしょうか？いいですか、この世の知恵に反するパウロの計画は、いつも他の人を助け、他の人に仕えるものでした。先週8節で見た、アジアで「生きる望みさえ失ってしまうほど」までに人々に仕えていました。6節では、「もし私たちが苦しみに会うなら、それはあなた

がたの慰めと救いのためです。」と語っています。事実、彼の計画が変わったのは、神さまの御心によって、です。だから17節で彼はこう自問しています。『このような計画を立てたのは、軽はずみだったのでしょうか。それとも、わたしが計画するのは、人間的な考えによることで、わたしにとって「然り、然り」が同時に「否、否」となるのでしょうか。』そして18、19節でこう続けます。『神は真実な方です。だから、あなたがたに向けたわたしたちの言葉は、「然り」であると同時に「否」であるというものではありません。わたしたち、つまり、わたしとシルワノとテモテが、あなたがたの間で宣べ伝えた神の子イエス・キリストは、「然り」と同時に「否」となったような方ではありません。この方においては「然り」だけが実現したのです。』パウロはこう語っていたのです。「福音によるあなたの成長の時はいつも”Yes”だよ。」と。そして「初めの時でさえ、シルワノとテモテと私がコリントに行って、あなたにキリストを示すための神の誠実さだった。」と。だから、パウロがコリントへ直接向かわなかった決断は、コリントの人々にもっと恵みをもたらすためだったのです。コリントの人々が完全にその恵みを見るための恵みはどこにあったのでしょうか？その神さまの恵みは、神の約束全てを成就させたイエス・キリストの中に完全にありました。(20節)パウロは、「神は、イエスキリストを通して神の完全な誠実さを表した。」と語っています。キリストにあって、旧約聖書に書かれているアダムやダビデへの約束は全て成就しています。そして、私達には絶対に守れない律法も、イエスさまが私達のために完全に果たしてくれました。パウロのメッセージやミニストリーにおいて、キリストがどれほど彼の中心になっているか分かりますか？パウロは言います。「神さまは、約束を全てキリストにおいて守る誠実な方だ。」と。(20節)『神の約束は、ことごとくキリストにおいて「然り (Yes)」となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して「アーメン」と唱えます。』

だから、パウロが語っているのはこうです。あなたの救いに関して、それは「Yes」です。あなたの喜びに関しても、「Yes」です。あなたの聖さと平安に関しても「Yes」です。そして、あなたのための犠牲的な奉仕も「Yes」です。なぜなら、あなたの周りで宣言されたイエスキリストは、「Yes」と「No」が混在しません。イエスにあってはいつも「Yes」なのです。イエスキリストにあって、神さまの全ての約束は「Yes」なのです。**Q.ここであなたに質問です。**あなたは、イエスキリストにあってあなたのための神の約束に全て「Yes」と答えましたか？あなたの心は、イエスキリストにあって、神さまからあなたへの全ての「Yes」を喜び、楽しんでいますか？もしあなたがキリスト教のことを知ってまだ間もない方なら、質問です。あなたは、イエスキリストにあって、あなたのための神の約束が何か知っていますか？イエスキリストにあって、あなたもための全ての神の約束に「Yes」と言ったことがありますか？もしくは、いくつかの約束に対して、あなたは「多分」とか「ま

だ」と言っていますか？私がこう聞いているのは、もしあなたがまだ「Yes」と言っていないなら、あなたは神さまからの約束をたくさん逃しているからです。

パウロが基本的に言っているのはこうです。「キリストにあって、罪の赦しはあるか？」「Yes」「キリストにあって、あなたに義が与えられたか？」「Yes」「キリストにあって、あなたのために律法が完全に満たされたか？」「Yes」「あなたは罪悪感や罪、責めから完全に解放されたか？」「Yes」「イエスキリストにあって、あなたの将来と永遠は安全か？」「Yes」「イエスキリストにあって、永遠の相続が約束されているか？」「Yes」「あなたはクリスチャンで、不完全さを感じ、もっと聖になりたいと望んでいるか？」いいですか、イエスキリストにあって、あなたが求める聖さは全て「Yes」なのです。「イエスキリストにあって、あなたに救いの喜びが与えられるか？」「Yes」イエスにあって、全ての神の約束は「Yes」なのです。だから、私たちが祈るとき、パウロは「それで、わたしたちは神をたたえるため、イエスキリストを通して「アーメン」と唱えます。」と言っているのです。「アーメン」とは、元々ヘブライ語で、ギリシャ語でも同じです。その意味は、「そうなりますように、確かに、まさに」です。イエスキリストを通して、私たちは「アーメン」を神さまの栄光のために言うのです。だから、私たちが神さまの約束によって祈る時、イエスキリストのような従順さで歩む時、神さまの約束は全て「Yes」であり、イエスにあって、神の栄光に対して「アーメン（そうなるように、確かに）」なのです。そして、神さまが、福音の約束を全て守ってくださる誠実な方であるように、パウロも他の人たちの喜びのために働くことに誠実でした。では、最後のポイントです。

---

### 3.他人の喜びにつながる犠牲的な働き

#### 21-24節

「21 わたしたちとあなたがたとをキリストに固く結び付け、わたしたちに油を注いでくださったのは、神です。22 神はまた、わたしたちに証印を押して、保証としてわたしたちの心に“霊”を与えてくださいました。

23 神を証人に立てて、命にかけて誓いますが、わたしがまだコリントに行かずにいるのは、あなたがたへの思いやりからです。24 わたしたちは、あなたがたの信仰を支配するつもりはなく、むしろ、あなたがたの喜びのために協力する者です。あなたがたは信仰に基づいてしっかり立っているからです。」

21節でパウロが言っていることに気づいてください。「わたしたちとあなたがたとをキリストに**固く結び付けてくださったのは、神です。**」「establishes (固く結びつけた)」とは、「誰かを確固たるものにする、または信念を確立させる。」と言うことです。パウロは、彼自身もコリントの人々も、彼らの救いには何も貢献していないことを示しています。使徒であったパウロでさえも、神さまと彼らの間の仲介者となることはできないのです。パウロは、「私たちにキリストを信じさせたのは神であり、あなたのキリストへの信仰を固めたのは神です。」と言います。もしあなたがキリスト教信仰に新しい方なら、イエスキリストがあなたのためにされたことへの応答として「アーメン」と言うなら、神さまが、あなたの信仰を承認してください。キリストにあってあなたの信仰を確立させたのは神です。あなたクリスチャンで、不安定で、弱さを感じ、信仰に揺らいでいるなら、この素晴らしいお知らせを聞いてください。あなたを信仰に導いた方は、「神さま」です。そしてキリストにあってあなたの信仰を固めたのも「神さま」です。21節をもう一度見てください。「わたしたちとあなたがたとをキリストに固く結び付け、わたしたちに**油を注いでくださったのは、神です。**」

「油を注いでくださった」と言うのがどれほど重要な言葉か分かりますか？（※油を注がれた＝祝福された、聖別された、選ばれた）旧約聖書では、預言者や、祭司や、王さまだけがその働きのため、神さまによって油注ぎを受けました。しかし、ここでのキリストの意味は、「油を注がれた唯一の方。」言い換えると、旧約聖書の預言者、司祭、王のすべての役職は、キリストによって完全に満たされたということです。キリストが私たちの究極的な預言者です。キリストが私たちの究極的な王です。キリストが私たちの究極的な祭司です。これはすごいことです！パウロは、「私たちに油を注いでくださったのは神だ」と言います。だから、あなたがキリストの元へ行く時、キリストのように、神に栄光を帰し、ほめたたえ、他の人たちに仕えることができるようになるため、**神さま**が聖霊であなたを聖別してくださります。パウロは22節で、「神はまた、わたしたちに証印を押して、保証としてわたしたちの心に“霊”を与えてくださいました。」と言っています。彼が言っているのは、「キリストにあってあなたを建てあげたのは神さまで、あなたに証印を押しているのも神さまだ。」ということです。

この時代、証印というものは、その人の信頼性と契約を守るために用いられました。また、証印を押した人による保護も表しています。日本でも、書類や契約を承認するため、今もハンコや切手を使っていますよね。パウロは、あなたに証印を押したのは神さまだと言います。あなたは王の証印を受けているのです。神さまはあなたに神の印を押したのです。あなたはいと高き神の子どもなのです。そして神さまは、「保証としてわたしたちの心に“霊”を与えてくださいました。」神さまは私たちの心に御霊を”預金”、”頭金”のように、来るべきものの保証として与えてくださいました。あなたの救いは神さまによって保証されています。あなたの相続は神さまによって保証されています。それは、キリストと彼の完全な働きによって100%保証されているのです。それには有効期限はありません。神さまはあなたの心に保証として聖霊を与えたのです。驚きだとは思いませんか？そして最後に、パウロは23、24節でこう言います。「神を証人に立てて、命にかけて誓いますが、わたしがまだコリントに行かずにいるのは、あなたがたへの思いやりからです。わたしたちは、あなたがたの信仰を支配するつもりはなく、むしろ、あなたがたの喜びのために協力する者です。あなたがたは信仰に基づいてしっかり立っているからです。パウロが言っているのは、「コリントへ行くのを控えたのは、あなたたちのことを思って、あなたたちのためだった。」ということです。パウロが計画を遅らせたことは意図的で、恵み深いものでした。それは神が、イエスキリストにあって、コリントの人々への怒りから守ったように。パウロは、「それはあなたへの思いやりだった。」と言います。それは、コリントの人々への思いやりで、彼らが悔い改める機会を与えるためのものでした。

使徒としての権威を持っていたパウロでさえ、恵みに駆られました。24節で、「あなたがたの信仰を支配するつもりはなく、むしろ、**あなたがたの喜びのために**協力する者です。」と言っています。神さまが与えた使徒という権威を持つパウロでさえも、自分の模範によって他人の喜びのために働きました。コリントの人々の喜びのために、パウロが苦しんで彼らを導く方法で働きました。パウロは彼らを支配しようとしていたのではなく、また彼の個人的興味からでもなく、ただ彼らの喜びのために寄り添う方法で彼らに仕えたのです。

最後に、クリスチャンの働きとは、他人が喜びの中で成長できるように寄り添って助けることです。Q.質問です。あなたが救いの喜びを他の人にもたらすために働い



ていくなら、この都市はどうなっていくでしょう？あなたが自分の上司や同僚にどう接するかを通して、喜びをもたらすなら、職場はどうなっていくでしょう？他人の喜びのために働く時、教会はどうなっていくでしょう？あなたの家族の喜びのために家族に仕えるとき、あなたの家庭はどうなっていくでしょう？パウロは言います。キリストにあって、あなたのために全ての約束を成就してくださったのは神です。キリストにあって、あなたの信仰を固めたのは神です。あなたに王の証印を与えたのは神です。保証としてあなたに御霊を与えたのは神です。キリストにあって、神を敬う、神に喜ばれる生活を求める心の動機を与えたのは神です。あなたが他人の喜びのために働けるよう、あなたを祝福し、選び、油を注がれたのは神です。